



大津・SDGs協働支援チャリティプロジェクト 報告書 2024



ご挨拶

1. 2024 年度のプロジェクトの成果

2. プロジェクトの目的と概要

3. SDGs に複合的に取り組むまちづくり事業

4. 子ども SDGs クラブ（次世代の育成）

5. 事業成果・SDGs を育む（人材育成活動）

- ・ SDGs を伝える（啓発活動）

- ・ SDGs で集う（交流活動）

6. 事後評価アンケート

7. ご協賛企業、団体

大津市長 佐藤 健司

この度、「大津・SDGs協働支援チャリティプロジェクト」が7周年を迎えられましたことを、心よりお喜び申し上げます。

昨年度は、様々な活動がより活発になり、「人と人のつながり」の大切さを再認識した一年でした。今後も市民の皆様が暮らしやすく、持続可能なまちづくりを進め、「夢があふれるまち大津」の実現に向け、地域の絆を大切にしながら、市民の皆様と共により良い未来に向けて歩みを進めていきます。



今回のプロジェクトを通じて得られたかけがえのない人と人のつながりを大切にし、皆様方の活動がSDGsの基本理念である「誰一人として取り残さない」社会の実現や協働のまちづくりにつながることを願っております。

皆様におかれましては、今後ともご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

大津市市民部長 川島 英和

本市では、社会を取り巻く環境が多様化、複雑化する中で、市民の皆様が主体的にまちづくりに参加し、将来にわたり助け合い、支え合う、協働のまちづくりを推進しています。

現在、本市では「大津市協働のまちづくり推進計画」に基づき、市民や市民団体、事業者、そして大学が連携し、地域課題を包括的に解決するための体制づくりを進めるとともに、市民活動センターによる中間支援機能の充実を図っております。

大津市市民活動センターにおいて取り組まれてきた「大津・SDGs協働支援チャリティプロジェクト」は、多様な主体が課題を共有し、協力して事業を推進することで、地域社会全体の連携強化の基盤となるネットワークの形成につながるものと期待されます。

今回の「大津・SDGs協働支援チャリティプロジェクト2024」への参加に際し、市民団体、事業者、そして大学からのご協力に深く感謝申し上げます。皆様の交流と連携が、今後ますます効果的で持続可能なまちづくりを促進し、地域社会の発展に貢献することを心より祈念いたします。

1 2024 年度のプロジェクトの成果

四者協働の推進

多くの市民公益活動団体、企業、大学、大津市、滋賀県ならびに各種メディア等からご協賛やご協力いただき四者協働により事業を展開しました。

SDGs に対する啓発・人材育成・交流活動の推進

2024年度はSDGsの複数分野をテーマに「啓発・普及活動」「人材育成活動」「交流活動」に取り組み、また今年度からの新しい試みとして、小学生対象のSDGs連続講座と、その発表の場を提供し、次代を担う子どもたちとの協働にも取り組みました。



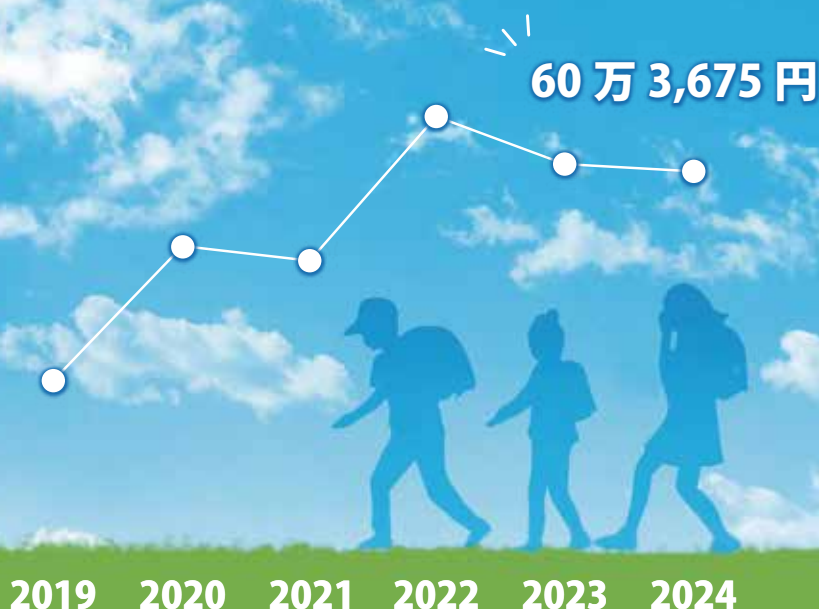
コミュニティファンドと寄付支援・資源提供の体制づくり

「SDGsの考え方を示す5つの「P」のうちPartnershipを含む3つ以上の「P」を活動目的に含む」大津市内の市民公益活動団体を寄付先として選定し、チャリティ事業と人材や体験プログラムのマッチングなどの支援を行いました。

チャリティでは多くの市民や協賛企業・団体、大学が資源を持ち寄って運営し、2024年度末で60万3,675円が集まりました。

寄付金額の推移

2019年	27万4,396円
2020年	44万4,000円
2021年	42万0,000円
2022年	71万6,214円
2023年	64万7,900円
2024年	60万3,675円



2-1. 大津・SDGs 協働支援チャリティプロジェクトの背景

大津市では、2011年に施行した『大津市「結の湖都」協働のまちづくり推進条例』に基づき、三者協働によるまちづくりを推進しています。大津市市民活動センターは、市民公益活動の推進により地域社会に貢献することを目的とした公共施設です。近年、地域社会が抱える課題はますます増大し、市民公益活動団体はもとより、様々なセクターの協働が求められています。

2015年9月、国連に加盟する193か国が2016年から2030年の15年間で達成するためにSDGs(持続可能な開発目標)を採択しました。SDGsは17の目標と169 のターゲットで構成されます。これらの目標やターゲットは、市民公益活動と深く関わり、特定非営利活動促進法に記された20の活動分野ともよく合致します。

当センターでは、2018 年度から、SDGs をテーマとして、市民、行政、企業、大学の四者協働による地域貢献に 取り組んできました。

2-2. プロジェクトの構成と展開

本プロジェクトは「啓発・普及活動」「人材育成活動」「交流活動」の3事業で構成されています。

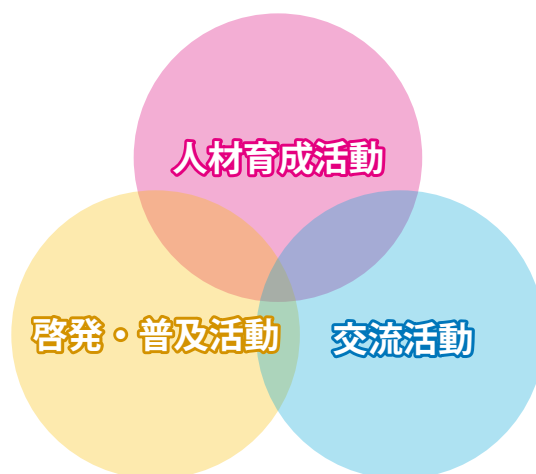
(図1)

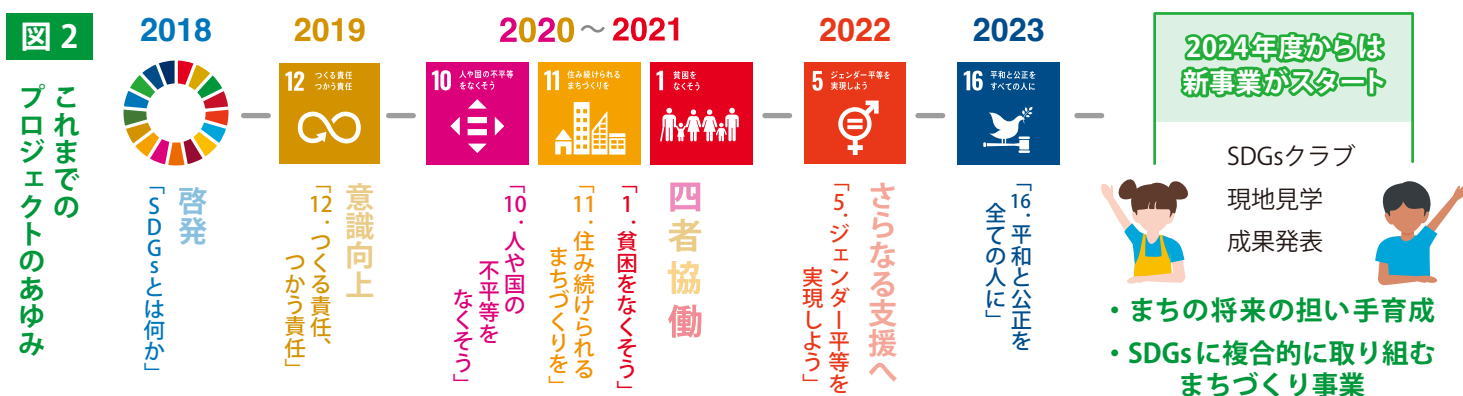
初年度の 2018 年度は「SDGs とは何か」をテーマにフェスタや講座などの事業を開催し、子どもから大人まで広く啓発する活動に重点を置きました。2019 年度からは毎年SDGsの17の目標からテーマを選び、その目標について講座やフォーラムを開催して理解を深めることに努めました。

また2019 年度からは「協働支援型寄付事業」として、各年度の目標に関連するテーマを設けて公募採択した市民公益活動に対して、四者協働によりチャリティ事業を展開しました。2020 年度からはチャリティに加え、人材や体験プログラムなど資源のマッチング事業を進めてきています。

2024 年度からは、支援先事業を SDGs に複合的に取り組むまちづくり事業としました。加えて、新事業として、将来のまちを担う子どもたちが、SDGs について学び、地域の市民団体と交流して、未来の大津に提言をしていく「子ども SDGs クラブ」を開始しました。(図2)

図1 3つの事業

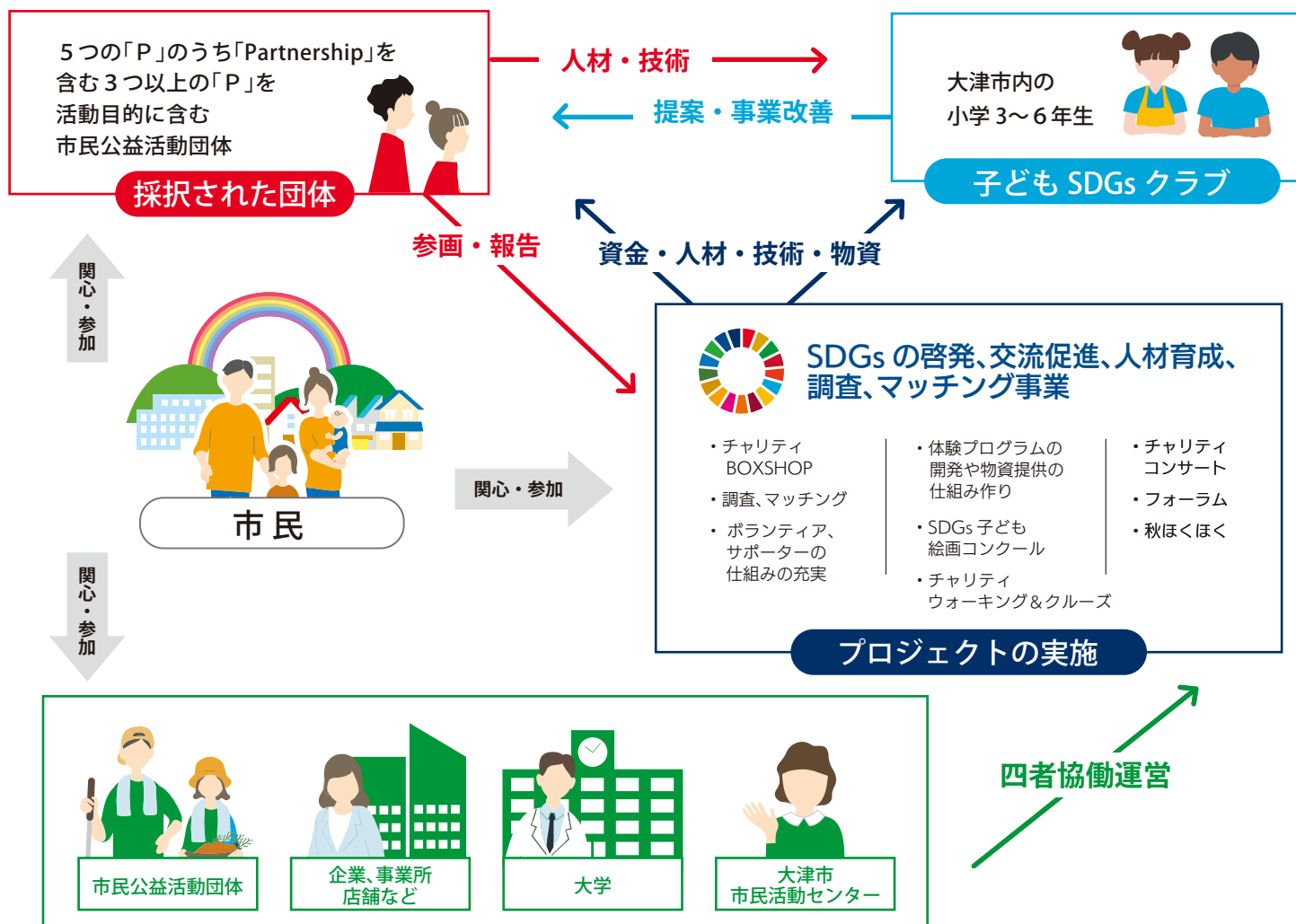




2-3. 四者協働(市民、行政、企業、大学)の仕組み

本プロジェクトは、市民、行政、企業、大学の四者協働により進めています。市民や市民活動団体、大学はボランティアや団体の持つ技術、企業は資金や生産物、サービスなど、それぞれが有する資源を持ち寄り、フォーラムやイベントなどを開催します。市民はこれらの事業に参加し、その参加費の経費を除く全てがチャリティとして積み立てられ、採択された団体が実施する支援事業の資金として寄付されます。(図3)

図3 四者協働の仕組み



3-1.SDGs に複合的に取り組むまちづくり事業

2024年度は、SDGsの目標年2030年が近づいていること、またSDGsの17のゴールは相互に密接に関係していることを受け、SDGsに複合的に取り組む事業を支援の対象としました。

2024年8月に審査会を開催し、「湖西ゆびまるこ」「瀬田東国際交流クラブ」「比良里山クラブ」の3団体の事業が採択されました。



審査会の様子

3-2. チャリティ支援事業

①湖西ゆびまるこ

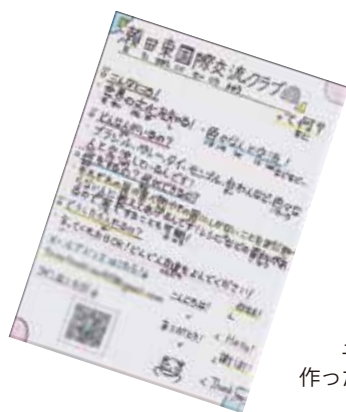
指で丸を描くパステルアートの体験を通して「自己肯定感」を育む活動を津市近郊で実施しています。パステルアートと絵本の読み聞かせで「児童がSDGsについて楽しく学べるプログラム」を作り、子どもたちとその周囲の大人に「誰も取り残さない社会」の意義を広げてゆきます。また学校外での体験を通して子どもたちの学習意欲や課題解決能力の向上も図ります。



活動の様子

②瀬田東国際交流クラブ

海外にルーツを持つ方々や、国際交流に関心のあるかたが集まり、子どもたちが主体となって企画する多文化イベントを通して交流を深めてきました。子どもたちがより主体となり「国際交流には何が必要か」を考え・企画し、日本人、外国籍の人が互いに学び合い共に生み出すイベントを開催します。



子どもたちが作った募集チラシ

③一般社団法人比良里山クラブ

滋賀県津市南比良で里山保全や自然体験・環境学習、コミュニティ保全に取り組んでおります。3年前から実施してきた運動に関する取り組みを四者協働（地域の大学、他団体、企業、自治体）で発展させて、地域住民の健康増進、観光資源化を目的としたウォーキングコースの設立を目指します。



クラブ拠点でのコミュニティ活動

SDGs 連続講座と支援先団体による活動体験会

次代を担う子どもたちが大津のまちで主体的にSDGsの活動推進に取り組めるよう、本年度から小学生を対象に全5回のSDGs連続講座を開始しました。

そのうち2回は支援先団体による活動体験の機会を提供し、講座で学んだことを子どもたち自身でまとめて発表する場として1月19日に「子どもSDGsフォーラム」を開催しました。

4-1.SDGs を絵本とカードゲームで
楽しく学ぼう！

9/29 大津市民活動センター

NPO法人ハテナソン共創ラボの佐藤賢一さんと、アインズ株式会社 東京支社・ここ滋賀事業部の林田頼将さんのご協力の元「SDGsとは？」をゲームと絵本、ワークショップで楽しく学び、受講して生まれた疑問を子どもたちでまとめました。

4-2.SDGs の現場とつげき取材！
その1

10/20 大津市民活動センター

支援先団体の「湖西ゆびまるこ」さんのパステルアートと読み聞かせの活動を実際に体験し、作品を制作。もう一つの支援先団体「瀬田東国際交流クラブ」さんからは国ごとの文化の違いを聞いたり、企画した鉢植えづくりなどの交流イベントを体験しました。

4-3.SDGs の現場とつげき取材！
その2

11/10 まほろばの里

支援先団体である「比良里山クラブ」さんの活動現場「まほろばの里」で、蕎麦の収穫や脱穀機の使い方を体験。栽培している赤しそジュースの試飲を通して、地域での活動や自然との共生について学びました。



4-4. みんなで大津の未来を描こう

12/8 大津市民活動センター

これまでの3回の活動を通して、新たに生まれた疑問をまとめて、SDGsに照らし合わせながら未来の大津を子どもたちとデザインしました。



参加者の声

- ・あまりよく知らなかった団体について良く知ることが出来た。世界にいろんな文化や人がいることを知った。
- ・大津でもくるしんでる人がいることがわかった。

- ・SDGsにはたくさんの思いがこめられているんだな。
- ・子どもが、節電や、ゴミの分別など、生活の中でもSDGsを意識するようになった。（保護者の方より）

5-1. SDGs 体験 秋ほくほく

11/17,11/30,12/1 大津市市民活動センター 3 教室（参加者 104 名）

市民活動団体や事業所の協力により、木工教室、水彩画教室、琉球国祭太鼓体験、SDGs教室を開催しました。



5-2. 子ども SDGs フォーラム

1/19 スカイプラザ浜大津（第一部参加者 100 名、第二部参加者 50 名）

SDGs について学べる「子ども SDGs ひろば」と「お話会・ハテナを出し合う子ども座談会」の二部構成でフォーラムを開催しました。また本イベントには子ども SDGs クラブの子どもたちがお手伝いスタッフとして参加しました。

第一部の「子ども SDGs ひろば」では、手作りワークショップや魚釣りゲーム、お買い物ゲームなどのブースを来場者が体験し、楽しく SDGs について学びました。

第二部の「お話会・ハテナを出し合う子ども座談会」では石山寺の座主 鷲尾龍華さんから「人と自然、生き物たちとの共生」などについてお話いただいた後、クラブの小学生たちが SDGs や市内市民活動団体の紹介をしたり、大人の参加者と SDGs について議論を交わしました。



5-3. インターンの受け入れ

滋賀短期大学の学生が、センターの交流事業イベントの運営に参加しました。運営で実際に体を動かしながら改善策を積極的に提案報告するなど、主体的に取り組まれました。



5-4. 支援先団体の取り組みについての情報発信

当センターの機関紙「ちえけら」にて、支援先団体の取り組みなどについて特集を組み、情報発信を行いました。



参加者の声

子ども SDGs クラブの小学生たち （フォーラムにお手伝いスタッフとして参加）

- ・最初はお手伝いがうまくできなかったけれど、なれるとうまくできてとても心に残りました。
- ・ありがとうと言われて嬉しかった。
- ・いろんな人が SDGs について考えているということが知れて良かったです。

フォーラム参加者（大人）

- ・座主さんのお話は優しい語り方で、普段の生活と SDGs の視点について分かりやすい話でした。
- ・SDGs の絵本、ゲーム等楽しかったです。勉強になりました。

フォーラム参加者（子ども）

- ・ノートづくり楽しかったです。ありがとうございました。
- ・楽しかったです！もう一回やりたい！！

5-5. 大津・SDGs 子ども・絵画コンクール 2024

表彰式 1/19 ふれあいプラザ
(69 作品応募 受賞者 13 名)

SDGsを達成した大津市について思いをはせ「こうなったらいい未来の大津」を題材とし、市内の小学3年生から中学生を対象に絵画作品を募集しました。

昨年度を上回る 69 点の応募作品より大賞(市長賞)1 点、審査委員長賞 1 点と協賛企業11 社からの特別賞を選定し、1 月 19 日の表彰式で賞状と副賞を授与しました。

また、応募作品を大津市市民活動センターや平和堂石山店、滋賀銀行大津駅前支店、大津市役所にて展示しました。



SDGs 子ども絵画コンクール 2024 大賞

「たくさんの人を笑顔にするために
自分のできることをやってみよう」

受賞した子どもからのメッセージ

じぶんでできることをふやして、持続可能な世界にしていこう。
そうしたらみんなも笑顔になるよ。

5-6.SDGs キッズ絵画教室

7/20 , 8/25 大津市民活動センター（参加者 41 名）

クイズ形式でSDGsについて学んだ後、水彩画の先生に表現技法を学びながら、SDGsをテーマに絵を描きました。



自由な発想で筆以外でも楽しくお絵描き

5-7. 大津・SDGs くるくるチャリティBOX

協賛企業等計 5 店舗に設置

市民公益活動団体が生産したお菓子・農産物・文具・小物等を企業や団体のオフィスなどで社員向けに頒布し、価格の10%を寄付いただきました。



事業所などに提供している、
くるくるチャリティBOX

5-8. 音楽絵本でリトミック

8/30,12/20,2/14, 大津市市民活動センター（参加者 35 名）

大津リトミックグループ協力のもと、ピアノの音に合わせてリズムを取ったり、絵本の読み聞かせや親子のふれあい遊び等を楽しみました。



5-9. キッズスポーツ教室

9/10 大津市市民活動センター（参加者 78 名）

アスリートスポーツクラブ協力のもと、飛んだり跳ねたり、体操をしたり、楽しく体を動かしました。



5-10. びわ湖チャリティウォーク&クルーズ

11/12 JR 大津駅から大津港～琵琶湖クルーズ（参加者 198 名）

JR大津駅からSDGsに関するクイズを楽しみながら大津港までウォーキング、その後琵琶湖汽船のミシガンの就航を楽しみました。クイズを全問正解すると協賛企業より提供いただいた景品がもらえ、子どもたちに大好評でした。



5-11. チャリティコンサート フルートオーケストラ オペラの名曲アラカルト

10/1 スカイプラザ浜大津（参加者 86 名）

地元滋賀県はもとより、世界で活躍されているフルートオーケストラ集団「湖笛の会」による12本のフルートのみで構成されるチャリティコンサートを開催しました。フルートの華やかな音色で、オペラの名曲を多数演奏いただき、大変好評を博しました。



参加者の声

SDGs 体験 秋ほくほく

- ・子供がとても喜んでいました。ありがとうございます。
- ・チャリティだと、子どもの教育の一貫として、とても良いなと思い参加させて頂きました。

びわ湖チャリティウォーク&クルーズ

- ・大津の町中を歩く機会がなかなかなかったので。ありがとうございます。
- ・これからも頑張って大津を盛り上げて下さい。

本事業に参加・協賛頂いた市民公益活動団体（サポーターを含む）、企業、行政を対象に事後評価を実施しました。市民公益活動団体からは10、企業からは17、大学からは1団体より回答を得ました。

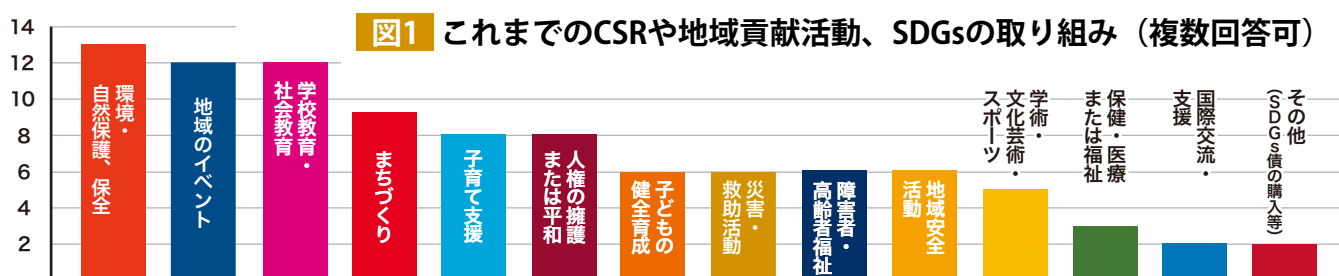
6-1. 団体・組織の種別と地域貢献等の取り組み状況

（１）市民公益活動団体、サポーターの現状

本調査に回答した10の市民公益活動団体およびサポーター市民に「今年度、本事業『大津・SDGs 協働支援チャリティプロジェクト2024』以外に、SDGsをテーマにした活動に取り組まれましたか？」と尋ねたところ、「いいえ」が7、「はい」が3となりました。市民公益活動団体やサポーターの本プロジェクト以外のSDGsへの取り組みは3割となりました。

（２）企業のSDGsや地域貢献等への取り組み

本調査に回答した17の企業及び1大学が、これまで取り組んだSDGsやCSR、地域貢献活動の分野を見ると、「環境・自然保護・保全」が13、「地域のイベント」「学校教育・社会教育」が13事業所と多い結果でした。（図1参照）本事業以外にSDGsに取り組んだ事業や取り組み、協賛等の有無については「ある」「ない」とともに9事業所となりました。

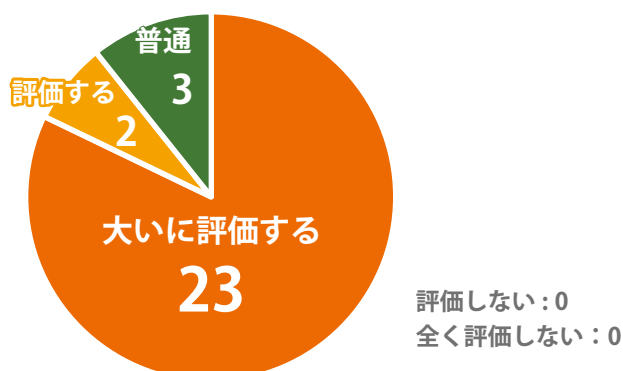


6-2. 本プロジェクトのテーマや内容には89%以上の市民公益活動団体・個人や企業が高評価

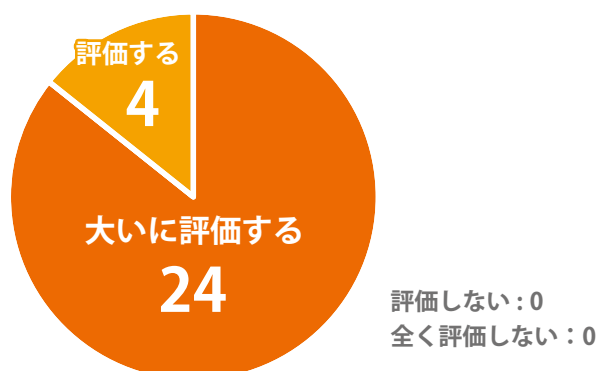
本調査に回答した10の市民公益活動団体およびサポーター市民、17の企業及び1大学に対して、今年度のプロジェクトやチャリティの成果について図2の4項目について尋ねたところすべての項目について89%以上の団体が、「大いに評価する」「まあ評価する」と回答がありました。自由記述では、「チャリティ目標額達成への評価」「子どもへのアプローチの大切さ」などの声が寄せられました。

図2 今年度のプロジェクトやチャリティの成果について

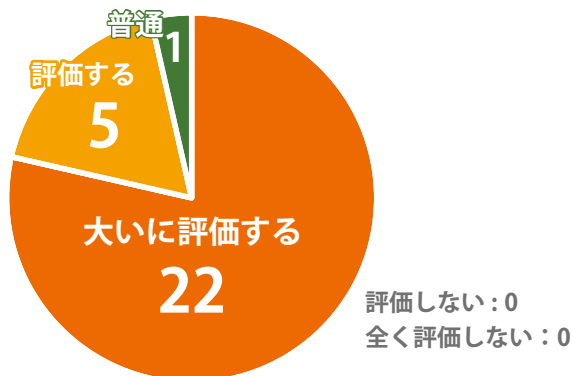
① 四者協働によりSDGsに取り組んだ



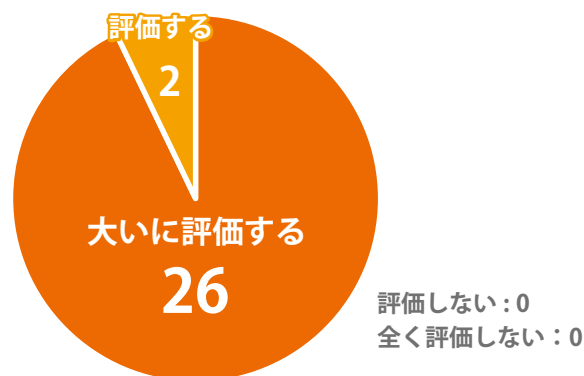
② 新たな事業メニューとして、子どもがSDGsについて学び、発信する「子どもSDGsクラブ」を運営した。



③チャリティなど支援先として「SDGsに複合的に取り組む事業」を設定した。



④チャリティの目標額を達成した



自由記述

【プロジェクトについて】

・他ではなかなか見られないような先進的かつ継続的な活動をされています。
・四者協働、子どものSDGsクラブの活動、寄付支援などの活動の成果は大変素晴らしいですね。チャリティの目標金額の倍近い額が集まったことは、「大津・SDGs推進協働プロジェクト 2024」が大きな支援を集めていることの表れだと思います。

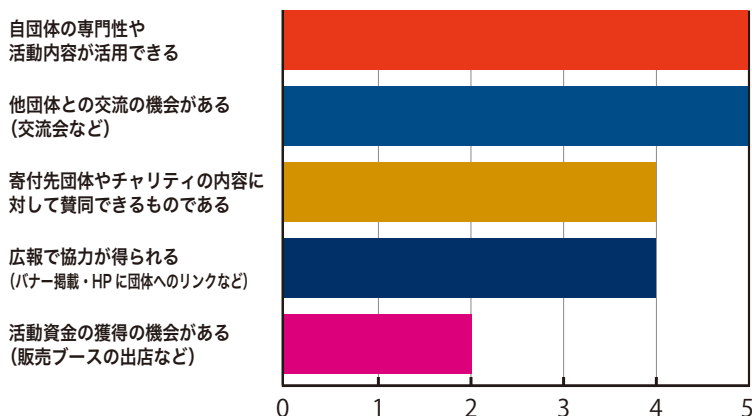
【子どもSDGsクラブの運営について】

・四者協働が実現されていること自体が素晴らしい。SDGsを知識でだけではない参加型の子どもSDGsクラブには大きく期待いたします。
・SDGsが世間的に認知されてきているが、家庭や学校で学ぶことはなかなかないのが現状。子どもへのアプローチはとても大切だと思うので、まずは関心のある子どもたちから知ってもらい実践していく輪を広げることが大切だと思う。

6-3. 今後のSDGsや地域貢献において重要なのは「専門性の活用」「交流」

本調査に協力した市民公益活動団体および市民サポーターは、四者協働により地域貢献事業への協力で重要と認識する項目として、「自団体の専門性や活動内容が活用できる」「他団体との交流の機会がある」が最重要となっています。(図3参照)

図3 市民公益活動団体および市民サポーターが、四者協働による地域貢献事業への協力で重要と認識する項目



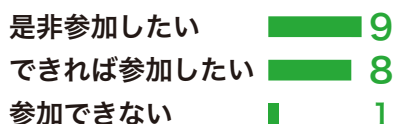
6-4. 企業は四者協働での地域貢献事業では「資金的な支援」を検討したい傾向

本調査に協力した企業において、四者協働による地域貢献事業への参加について、図の5項目について尋ねたところ、「資金的な支援」で8事業所、「物品などの提供支援」で7事業所が参加の意向を示しました。

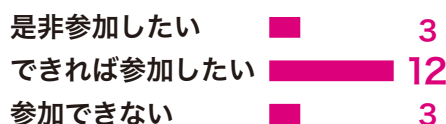
図4 今後の四者協働で貴社・貴団体が参加したいと思う項目について



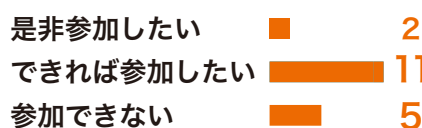
資金的な支援



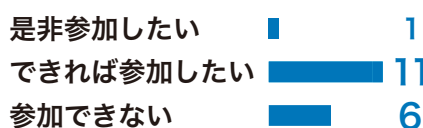
物品などの提供支援



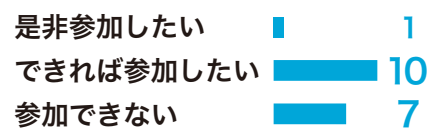
人的支援
(ボランティアなど)



活動場所の提供支援



専門的、技術的な支援



6-5. 来年度の本事業への参加については 96% の団体や個人、企業が参加の意向

本調査に協力した市民公益活動団体および市民サポーター、協賛企業の16団体（57%）が「ぜひ参加したい」、11団体（39%）が「できれば参加したい」と回答した。自由記述ではSDGs浸透への思いなど、当プロジェクトへの期待が寄せられました。



自由記述

【SDGs への思い】

・すべての世代に SDGs の考えが浸透するような活動を期待します。
・ウクライナ戦争、アメリカのパリ協定離脱・SDGs 拒否表明。SDGs の 2030 年の達成は難しくなっています。しかし SDGs の理念は不変です。活動に期待いたしております。

【四者協働について】

・地域の中で垣根を越えて連帯することは今後益々重要になってくるかと思います。互いを尊重し継続して地域の未来を考えることでより良い未来を築いていこうと尽力なさっている姿は、私たちにとってもとても学ばせていただくことが多く、感謝しております。今後もどうぞよろしくお願いいたします。

アインズ株式会社

Social Good Produce **EINS**代表取締役社長
谷口 彰

事業コンセプトである【ソーシャルグッドプロデュース企業への進化】に向け、社会と顧客の課題が解決される最適な方法をプロデュースしていきます。当社のステークホルダーである【お客様、お取引先様、従業員、地域社会】とのつながりをより多くの方々と共有したいと考えています。

油藤商事株式会社

まちのエコロジーステーション
油藤商事株式会社代表取締役
青山 裕史

SDGs 7 番目の目標「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」の取り組みとして、地域から集めた廃食油をリサイクル燃料「バイオディーゼル」に精製し、それを地域で使っていただく地域内資源循環を推進しています。

株式会社一花

Flower produce
ichica
一花代表取締役
岩上 智佳子

「花育」の地域活動で、自然との関わりや創作の楽しさ、人との繋がりなど感性を豊かに育む機会を創出しています。また、母の日キャンペーンの売上の一部をプロジェクトに寄付することで SDGs の推進につながればと考えています。

近江鍛工株式会社

 **近江鍛工株式会社**
OHMI PRESS WORKS AND FORGING CO., LTD.代表取締役会長
坂口 康一

近江鍛工株式会社は日本のローリング鍛造の草分け的企業です。環境こだわり県である滋賀県大津市に本社を置く企業として環境への取組は勿論のこと、企業の社会的責任として SDGs にも積極的に関与しています。

株式会社 叶 匠寿庵

叶 匠寿庵代表取締役社長
芝田 冬樹

叶 匠寿庵の本社「寿長生の郷（すないのさと）」は、環境省の「自然共生サイト」にも認定され、里山の生物多様性の保全を推進しています。これからも環境や地域社会を考え、課題解決に取り組んでまいります。

キステム株式会社

 **GATE-GROUP**
キステム株式会社代表取締役社長
井門 一美

キステム株式会社は、事業活動に SDGs を取り入れ、社員の豊かな生活、そしてそれを支える社会の発展に貢献するため、総合情報サービス事業を通じ、社会課題の解決と持続可能な社会の実現に取り組んでまいります。

黒田紙業株式会社

— 古紙を大切にするリサイクル産業 —
 **黒田紙業株式会社**代表取締役
黒田 軒史

廃棄物の減量と資源の再利用を自らの社会的な使命として、あらゆる古紙を「捨てない・埋めない・燃やさない」のリサイクル 3 ないシステムを推進しています。美しい地球と未来のために一緒にリサイクルを推進していきましょう！

小林事務機株式会社

小林事務機株式会社代表取締役
小林 弘和

地域に根ざした「ありがとうカンパニー」として、環境ISOやMLGs・SDGs に取り組み、人と人との交流活性化への一助となるべく事業を展開しています。昨年竣工した『ZEB』性能の本社新社屋を WorkingLiveOffice として稼働中です。

株式会社 滋賀銀行

SHIGA BANK総合企画部
松浦 花穂

当行は、パーパス「『三方よし』で地域を幸せにする」のもと、地域の課題解決に積極的に取り組んでいます。皆さまとともに地域の未来をデザインする企業となり、持続可能な未来に向けて貢献してまいります。

滋賀県信用保証協会

 きっかけは、その保証でありたい
滋賀県信用保証協会理事長
西嶋 栄治

当協会は、県内中小企業者の良きパートナーとして、中小企業者の皆さまの課題解決や持続可能性の向上に取り組んでいます。そして、SDGs の普及に努め、企業価値向上、持続可能な地域社会の実現に貢献していきます。

学校法人純美禮学園 滋賀短期大学



ビジネスコミュニケーション学科
学科長 若生 真理子、江見 和明



滋賀短期大学は、「心技一如」の精神のもと、社会に貢献できる人材の育成に力を入れております。貴プロジェクトには、学生がボランティアスタッフとして参加させていただき、心より感謝申し上げます。

生活協同組合 コープ自然派京都



理事長
筆口 智子



消費者が主体的に運営に関わり、生産者と顔の見える関係を築くことにより、農薬や添加物などを避け、生産者の健康、土壌など環境を守り、持続可能な生産、消費を実現しています。

大樹生命保険 株式会社



営業部長
兼第一CS室長 宮園 栄人

大樹生命保険株式会社

当社は、「社会・環境」「いのちと健康」「人の生活の安心」を三本柱として、苗木プレゼントやピンクリボン運動など様々なCSR活動を通じて社会的課題の解決とSDGs達成に取り組んでいます。

藤野商事株式会社



代表取締役社長
藤野 滋

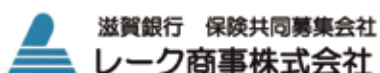


淡海エコフオスター制度に登録、月1回清掃活動を実施。205回となりました。またペットボトルキャップ回収を継続。昨年度(2023年7月～2024年6月)は1737kgを回収しました。そのうち1483kgは県内の小中学校17校に集めていただいたものです。

レーク商事株式会社



取締役社長
西川 勝之



当社は、滋賀銀行のパートナー企業として環境にやさしい企業活動を展開している保険代理店です。「輝く未来へ、レーク商事にできること」を合言葉に地域社会の課題解決に貢献して参ります。

株式会社 昭建



代表取締役社長
中村 智



昭建は「豊かな社会環境の創造に貢献する」の精神のもと、総合建設業や建設資材の製造販売等幅広く事業を展開しています。今後も豊かな水や緑を有する郷土から持続可能な社会の実現に向けて取組み、発信していきます。

正和設計株式会社



代表取締役
田中 英幸



当社は社会資本の整備を通じて地域の活性化に貢献するとともに環境保全にも力を注ぎ、人と自然が共生する未来づくりに取り組んでいます。また、健康経営にも取り組んでおり健康優良法人2025ではネクストブライト1000に認定されました。

琵琶湖汽船株式会社



代表取締役社長
川添 智史



びわ湖との共生を環境方針に定める当社では、びわ湖環境学習体験クルーズや、鮎ずし作り体験クルーズなどのカルチャークルーズを通じて、びわ湖の環境保全活動および地域の活性化に取り組んでいます。

株式会社 よつ葉ホームデリバリー京滋



代表取締役
光久 健太郎



私たちよつ葉は、食は自然の恵み・人も自然の一部という価値観に重きを置き、自然との関わりを大切し、安心して暮らせる社会を求め、その実現にむけて行動します。本事業に参加し、多くの出会いに感謝しております。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

謝辞

本事業は、市民、行政、企業、大学の四者協働で、SDGsをテーマに地域貢献を進めるものです。7年目となる2024年度は、「未来・まちづくり」を新たな視点として、「こどもSDGsクラブ」を開催し、またチャリティ先もSDGsの5つのPで3つ以上の分野にまたがる、広範なまちづくりに貢献する事業を支援することとしました。

SDGsが国連で採択されたのが2015年。目標年の2030年まで5年となりました。SDGsのゴールはそれぞれが深く関連づけられるものです。より幅広い連携で、地域貢献ができるよう、運営を図ってまいります。これまでの温かいご支援に深く感謝し、また今後ともご指導賜りますよう、お願い申し上げます。

2025年 5 月 大津市市民活動センター

プロジェクト主催・報告書発行

大津市市民活動センター

〒520-0047 滋賀県大津市浜大津 4-1-1 明日都浜大津 1F

TEL 077-527-8661

E-mail moveinfo@movementotsu.com

FAX 077-527-8662

HP <http://movementotsu.com>